

2012. 3. 20

南房総の過去の大地震・津波の痕跡を訪ねるバス見学会（報告）

昨年3月11日の東日本大震災では千葉県でも飯岡地区他で甚大な津波被害を受けましたが、房総半島には過去にも大きな津波襲来の記録が残されています。

今回の見学会は海辺を重点にして、300年前の元禄地震津波等で被害を受けた南房総地域を中心にその痕跡を訪ねました。

主な見学地

- 1、鴨川市前原地区の元禄地震前に造られた津波避難丘
- 2、南房総市和田地区の津波到達地点石碑（真浦の威徳院石段）
- 3、南房総市白浜地区の野島埼灯台周辺の地殻変動箇所

実施期日 2012年2月18日（土）

参加者数 50名（バスおよび自家用車）

行 程

（9：00）千葉発～鴨川市前原避難丘～和田威徳院～千倉白浜のお花畑（元禄地震で隆起した海岸段丘）～白浜野島埼灯台（元禄地震で陸続きになったといわれる）～白浜海底地滑り地層（数百年前の大地震による海底での地滑り跡）～千葉着（17：00）

元禄地震津波の概要

- ・元禄16年11月23日未明（1703年12月31日）に起きた地震で、千葉県では2000人以上が津波で亡くなっている。
- ・鴨川市前原地区で約900人、南房総市和田町真浦地区で80余人の死者がでている。津波の高さは前原で6m、真浦で10mを越したと推定されている。

その他（今回の見学会で気づいたことの一つ）

・威徳院の供養塔は被災50年後、そのまた60年後に建て直されている。南房総に限らず九十九里地区も含めて数多くの慰霊碑が建てられているが、その多くが被災後おおむね百年ほど経つと建て直されている。石の風化とともに人の意識が風化しないよう採られたものだろう。

